



今年度は附属小の
「創立150周年」です。
ワクワクでいっぱい年にしていきます！

令和6年度 附属小学校だより

スマイル⁴ふぞく



第2号 令和6年4月30日（火） 校長 古野 祐一

急な雨でもナイス・スマイル！

様々な出会いでいっぱいの4月が、あっという間に終わり運動会練習の声が響き渡る時期になりました。子どもたちの成長とともに、めまぐるしく過ぎ去る日々の中、多様なエピソードがスマイル附属を彩っています。

楽しく微笑ましいことが圧倒的に多いのですが、下校方法に慣れていない1年生が、家に帰ってこないとの連絡で捜索に出掛けたり、子供たちのトラブルで聞き取りを行い、家庭と連絡を丁寧に取り合ったりと、心配が募る時もあります。こうした**良いこともハプニングも全てを子供の成長に繋げていくことを、家庭と学校の共通の目的**と考え大切にしています。

つい先日も、喜怒哀楽が交錯する出来事がありました。歓迎集会・歓迎遠足です。8時45分から始まった歓迎集会では1年生を楽しませる各学年の出し物が続き、笑顔いっぱいの一時を過ごしました。さあ次は遠足に出発しようと気分も最高潮の中、隣にいた教頭先生が「雨が来そうです」と囁きます。一見すると曇り空で絶好の遠足日和でしたが、実は雨雲が近づいてくる予報に変わっていました。

教頭・主幹・教務は子供たちの安心安全を考え、常に先を見通し複数の選択肢を設け判断につなげます。集会終了後、「校内遠足」に切り替える決定をした頃には、遊び場や時間の割り振り一覧表が、三役で相談しながらスケジュール管理の教務主任によって完成。全校放送で、「競技場遠足」断念を告げた瞬間の落胆の声。続けて「校内遠足で遊び、お弁当、おやつを楽しもう」との連絡に歓喜の声をあげた子供たち。こうした間を置かない段取りができたのも職員室三役の敏感な危機意識と、その後の学年主任を中心とした教員団の柔軟な対応があったからです。そして、廊下を歩きながら「校内遠足も楽しい、『災い転じて福と為す』ですね〜」などと話し掛けてくる、「**楽しさを創ろうとする北斗の子たち**」のお陰です。

今後も運動会に向けた様々な良いこと、ハプニングが起きると思います。前向きな見方や考え方で向き合えるよう、保護者の皆様と歩調を合わせ協働していきます。ナイス・スマイルがあふれる5月と一緒に創っていきましょう。



A組による歓迎集会の出し物。



2年生による附属小クイズを楽しむ1年生。



教室・廊下でお弁当、おやつを楽しむ5年生。



体育館でお弁当を楽しむ1・6年パートナー。

※裏面に続きます！

子どものちから

あいにくの雨の校内遠足。さぞ子どもはがっかりするだろうと思っていました。そんな心配は無縁、学校公認の自由な時間、思い思いにやりたいことを楽しむ姿がありました。

段ボールで家づくりをする子どもたち。遠足用のシートでテントを作ってキャンプを始める子どもたち。普段は教師が使うグランドピアノを友達と連弾で楽しむ子ども。



4時間があっという間に過ぎたようです。

私はこの雨の遠足から、今年度本校が目指す、子どもも教師もワクワクする「変化」のヒントをもらったような気がしました。

育ち

そもそも子どもには、その子の思いがあり、その子の時間が流れています。ペースには違いがあるものの、その子の育ち方で成長していきます。決して大人が急かさず強要せず、育ちを急がせすぎないことも、やはり教育では大切であると改めて思いました。

ワクワクの源には、本来子どもがもっている「子どものちから」を信じることから始まるのではないかと。私たちは環境を整え、子どもの自然な姿にとことん付き合うことでも、可能性を大きく広げることにつながるのではないのでしょうか。

このコーナーでは、日々、全ての北斗の子の姿を見ることが出来る教頭の立場から、子どもが本来もつ「ちから」についてエピソードを交えながら紹介していきます。

教頭 橋田 晶拓

教えから学びへ²

変化する職員集団

ここ数年、インターネットや書籍などでは、「今の教育システムは必要か」「教師はAIに取って変わられるのでは」といった情報が数多く出てくるようになりました。学校教育が大きな転換期を迎える中、本校においても、あらゆる場面での「変化」を大切にしています。



先日行われた今年度初めての授業研究会。中村研究主任による授業を全職員で参観した後、放課後に、協議会を行いました。「学びの主体は子ども」のテーマのもと、「子どもの事実」に着目し、その意味付けや目指す姿を、対話を通して追究していきました。長崎大学の先生方と連携を図りながら、新たな研修や授業の在り方を探っているところではありますが、授業や研究会において「これまで通り」に縛られず、子どもと共に変化していくことのできる職員集団を目指します。

このコーナーでは、昨年度に引き続き、自律した学びの実現に向けた取組について、今年度は特に「教師の角度」からお伝えいたします。

主幹教諭 松尾 勇哉

身近な幸せ

学校ならではの楽しさ

5年生算数科の学びの様子です。難しい課題に直面した子どもたちが頭を突き合



わせ、どうにかして課題を解決しようと頑張る姿が素敵で、思わず撮影しました。

「これ、どう思う?」「あ!いいかも!」「でも…」

一人で挑んでみた壁が思わず高かったとき、子どもたちは自然と助けを求めていました。そして、お互いの考えを受け止め合い、比較しながら、目の前の壁を登り切ることができていました。

学校には一人ひとり違う価値観をもった子どもたちが集まります。感じ方や考え方が異なる仲間がいるというのが、学校の最大の魅力だと思っています。そんな学校では、一人ではできないこと、一人では見ることのできない景色に出会うことができます。それが学校の楽しさなのだ、冒頭の子どもたちの姿から、改めて感じたところです。

このコーナーでは、身の回りにある「身近な幸せ」をテーマに、学校ならではの、スマイル附属ならではの、幸せな瞬間をお伝えしていきます。

教務主任 野口 拓也